

令和6年度第2回宇陀市総合計画審議会

日時：令和7年2月19日(水) 午後1時30分～

場所：宇陀市榛原総合センター 3階大ホール

1. 開会

出席 16名 欠席 4名

2. 市長あいさつ

金剛市長：

本日はお忙しい中ご参加いただき感謝申し上げます。平成30年に令和11年度までの12年間を全体の期間とする第2次宇陀市総合計画が策定をされた。そして12年を前期、中期、後期という4年ごとの基本計画に分け、その時々状況に合わせてながら計画を実施しているところである。令和7年度に中期基本計画が終了を迎えるにあたり、令和8年度からの後期基本計画を策定してまいりたい。中期基本計画においても、毎年PDCAを回し、できたもの、道半ばのもの、まだできていないもの等をチェックしながら計画を進めているところである。

この4年間を振り返ると、中期基本計画が始まった令和4年は、2月にロシアのウクライナ侵攻があった。遠い国の戦争の話ではなく、それが食品、エネルギー価格をはじめ物価高騰に繋がっていった。また、2020年に発生したコロナウイルスが大変流行し、1日あたり10万人の感染者が出たという記録もあった。ウクライナ侵攻の影響もあり、物価高騰や1ドル150円を超える円安の進行など、今日まで続く日本の経済の弱さが見えた年であった。また、令和4年11月にChat GPTが公開され、さらにDXが進んできた。令和5年4月にこども家庭庁が発足をした。また、地球温暖化に対応してGX推進法が成立し、CO2削減のスピードアップを図る法律が成立した。5月にはコロナウイルスが2類から5類になった。6月にはLGBT法が成立し、誰一人取り残されないという人権の大きな動きもあった。11月には阪神タイガースが38年ぶりの日本一になった。令和6年1月1日、能登半島地震が起こった。未だ現地の方は復興が道遠しというような状況と聞いており、我々も東海、南海の地震というものが目の前にあるということを考えると、やはり防災対策には重きを置いていかなければならないと考える。中期基本計画はまだ1年は残っているが、今ご紹介しただけでも短い間に様々な大きな動きがあった。

今、国の方では、地方こそ成長の主役であるとして、地域のステークホルダーが連携して知恵と情熱を生かし地域の可能性を引き出そうとする取組を後押しする動きがある。宇陀

市としては、消滅可能性自治体としてこのまま静かに衰退していくのか、それとも持続可能性自治体として市民全員で力を合わせて、積極的にいろんな課題を乗り越えていけるのかという、まさに分岐点に立っていると思っている。

また一方で、令和 8 年 1 月 1 日は市政 20 周年を迎える。これまでの 20 年をもとに、これからの 20 年に向けて宇陀市としてのあり方を考えていかなければいけない。

宇陀市を取り巻く環境は厳しいものがあるが、後期基本計画がこれからの宇陀市の進むべき指針として、すばらしいものになることを期待申し上げ冒頭の挨拶とさせていただく。どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 諮問

4. 第 2 次宇陀市総合計画後期基本計画の策定について

1. 策定の背景について【資料 1】 事務局より説明
2. 策定体制について【資料 1】 事務局より説明
3. 策定にあたっての考え方について【資料 1】 事務局より説明

伊藤会長：

では、ただいまの説明内容についてご意見、ご質問があればお願いします。
無いようなので、あとでまたご質問があれば賜りたい。

5. 市民ニーズ等の把握のためのアンケート調査について

- ・市民ニーズ等の把握のためのアンケート調査について【資料 2】 事務局より説明

伊藤会長：

ただいまの説明内容について、ご意見、ご質問、ご感想があれば、頂戴したい。

長岡委員：

高校生アンケートを 3 年生に限定するのはなぜか。

事務局（田中）：

中期基本計画策定の際に高校 3 年生を対象にアンケートを実施しており、調査対象の基準を合わせることによって経年比較をできるようにするため高校 3 年生限定にさせていただいた。

長岡委員：

経年比較というのがよくわからないが、前の調査と今の 3 年生は人が違うので 3 年生に

限定する意味があるのか。それと、16～18 歳を対象とした若者世代アンケートがあるが宇陀高校の生徒は若者世代アンケートの対象から外すのか。そうしないと重複する。仮に若者世代アンケートの対象を高校 1 年生から 3 年生全部にしたら若者世代アンケートと全く一緒になる。その差をもう少し明確にしてほしい。

事務局（田中）：

高校生アンケートと若者世代のアンケートでは重複する方が当然出てくる。ただ、宇陀市内の方で宇陀高校に通っている方が 1 学年あたり 15 名前後であるので、できればその方には両方答えていただきたいと考えている。高校 3 年生を対象を限定するという点は再度検討させていただきたい。

長岡委員：

高校生アンケートでは 120 人中の 15 人だが、若者世代アンケートでは 600 人中の 15 人という考え方もある。高校生アンケートの対象を仮に 3 倍にして 45 人にしても 600 人分の 45 人であるから、それほど大きな影響を与えない気がする。高校生アンケートと若者世代アンケートの違いを明確にするべきではないか。宇陀高校の生徒に宇陀の住みやすさを感じているか尋ねても、宇陀市に住んでいる方と宇陀市外から授業に来ている方では感覚が全然違うのではないかという気がする。

事務局（田中）：

ご指摘のとおり、宇陀高校に通っている市内の高校生の方というのは非常に少ないというところであるが、私どもは、逆に市外の方の視点を知りたいとも考えている。外部の視点を知ることによって、宇陀市がどのように評価されているのか、どのように見られているのかということもしっかり把握しながら、宇陀市のまちづくりにつなげていきたいという思いもあり、こういった形でアンケートをとらせていただこうとなった。

長岡委員：

市外の方の意見であれば、事業所・関連団体アンケートは事業者であるから、宇陀に住んでいる人だけに限っているわけではない。ここに市外の方の意見が当然反映されるわけであるから、高校生アンケートの中に限って市外の方の意見を把握することが本当に必要なのか。ちょっと私は疑問である。

事務局（田中）：

事業所・関連団体アンケート調査については、宇陀市公民連携まちづくりプラットホーム会員の方と市内の事業者を合わせて 400 事業所程度を対象にしたいと考えている。このうち、公民連携まちづくりプラットホーム会員は、現在 75 事業者に登録いただいております。

のうち 39 が市内の事業者である。残りの 400 から 75 を引いた事業者については、すべて市内の事業者ということになるので、ほとんどが市内の事業者のご意見を頂戴するという形になる。

加えて、外部の意見を頂戴したいというところでは、転入者アンケート、転出者アンケートを取ることも予定している。転入者アンケートについては、当然市外からお越しいただいたということで、市外の状況と宇陀市との状況の両方を把握されているので、そこから宇陀市がどう評価されているのかが分かると思う。

また、転出者アンケートについては、何かしらの理由があって宇陀市から出ていかれたということであるので、例えば宇陀市の悪いところ、足りないところなどを知る機会にもなるかと思う。そういったところから外部の視点を幅広く調査し、計画の中に反映させていきたいと考えている。

伊藤会長：

私も最初、長岡委員と同じような疑問を抱いた。高校生とか若者世代のアンケートを取る意味は、中学生も含めて宇陀市の将来を担う世代だから彼らがどう思っているのかというのを聞きたいのだろうと思っている。高校生アンケートについては、高校 3 年生なので進学についての考えを聞いているが、若者世代アンケートについては既に働いている方もいらっしゃるから、宇陀市に愛着を持っているだろうか、宇陀市をどうしたらいいのか等を聞いている。だから高校生アンケートと若者世代アンケートは性格が違う。このあたりをきちんと整理するのは難しいだろうが、そこから何かヒントを得て、まちづくりのために参考にしようという意図があるだろうと思っている。宇陀市の特性として、若者がいないというのがあるため、アンケートの設計は難しいと思うが、何かしらのヒントをアンケートから得ようという意図があるのだろうと推測している。

市民アンケートの 1 世帯 2 票配布というのは回収率を上げるためだと思うが、単身者の方で 2 票を同じ人が書くという可能性もある。そういう意味で、アンケートは必ずしも正確な評価はできない。しかし、なんらかの市民の意識の状況というのは把握できると考えて、ある程度の目安として参考にしていくものである。その程度であると理解して施策に活かしていくことを考えていくのが必要だと思う。前回もやっているのだから、何か変化があるのかをみるのも大事だと思う。

大門委員：

アンケートの配布枚数について、それぞれ全体の分母がどれだけか教えていただきたい。

伊藤会長：

母集団がどれくらいで、サンプル数がどれくらいか説明していただきたい。

事務局（田中）：

市民アンケートについては世帯数が約1万1000~1万2000世帯なので、25%ぐらいになる。子育て世代アンケートについては数字の分母については把握していない。前回は無作為抽出が500世帯と、それ以外に子育て支援センターに登録していただいている方が60世帯の、合わせて560世帯に配布したので、今回も同様の数字になるように600世帯の方にさせていただいた。中学生アンケートについては、全ての中学生であり、高校生アンケートについては宇陀高校に在籍する高校3年生全員ということになる。若者世代アンケートについても16歳から18歳のほぼ全員となる。

事業所・関連団体アンケートについては、先ほど策定の考え方の中にあつたように、市内の事業者数が約1,000ということである。転入者アンケートと転出者アンケートについては、令和6年度に転入・転出した方全員である。

栗谷委員：

アンケートの対象者について、高齢者が回答できるのが市民アンケートだけであり、若い人が多く対象になっているように感じる。高齢者の思いなど聞かなくてもいい、という思いがあるように感じる。しかし、高齢者はこれまでの経験があるので、宇陀をよくするためには高齢者こそ出てくるべきだと思う。高齢者の枠をとっていただくなり、3,000世帯のうち何割は高齢者にすると決めていただけたらありがたい。

事務局（田中）：

高齢者の方がアンケートに答える機会は、若干は転入者アンケートの中にもあろうかと思うが、基本的には市民アンケートのみとなっている。しかし、宇陀市の高齢化率が40%を超える中で、19歳以上の市民から3000世帯を無作為に抽出すると、高齢者の方が50%以上になろうかと思う。そのため、高齢者の意見はしっかり把握できると考えている。

奥田委員：

中学生のアンケートの対象者は、市内の学校に通う中学生が対象になっているのか。市外の養護学校や私立学校に通っている中学生はどうか。

事務局（田中）：

中学生アンケート、高校生アンケートについては、回収率を高めるために、学校を通じての配布というのを考えているため、市外の学校に通われているお子さんについては対象外となっている。

奥田委員：

養護学校に通われる方、障害のある方の保護者から、中学生は義務教育にも関わらず市外

であることで子供の情報が入ってこないことがあると言われている。地域の学校に行けないから市外の学校に行っておられるので、そのあたりもできれば意見を抽出していただけたらありがたい。

市外の小学校へ通っている障害のある子どもたちは宇陀には少ないが、宇陀市全域で現在 60 人いる。これがずっと続くのであれば、その子たちが宇陀市内で大きくなって地域に住み続けられるまちであってほしいなと私は思う。

事務局（田中）：

そういった方の意見が今の形では反映されないという形になっている。しかし、どういった方々がそうした学校に行かれているのかを私どもが知るのは個人情報の関係もあるため、例えばホームページで回答できるような機会を設けるなどの形で対応できないかということとは検討させていただきたい。

小浦委員：

前回、中期のときもアンケートを作ったということだったが、その時の回収率はどのくらいだったのか。

事務局（鈴木）：

もし計画書をお持ちなら 111 ページに載っている。前回の回収率は約 44%であった。

小浦委員：

最近の動向を鑑みると今聞かせていただいた回収率はなかなかいいと思われる。どうしても高齢者、年齢の高い層の回答率が上がって、今働いている方の回答率が下がるというのはよくあることである。そうすると結果的になかなか知りたいところの世代の意見がつかみにくいということが、他のところでも時々発生するので、その辺りは少し注意がいるかと思う。

若者世代アンケートについて、他のアンケートは質問票がほぼ同じであるが若者世代アンケートは少し質問票の内容の項目が違う。そのあたりで、若者が現在の状況をどう評価するか把握することを意識した構成になっているのかどうか気になった。

事務局（田中）：

若者世代アンケートについては、市民アンケート、子育てアンケートなどの他のアンケートに比べ、53 の施策やリーディングプロジェクトについての評価は聞いていない。

これは、その中学、高校に通っているお子様方がどのように進路し、将来的にどのような希望を持っているのかを聞くことで、市としてどういうことが必要なのかを把握するということを意図して、こういう内容にさせていただいている。

また、若者世代の今現役で働いている方々の回答率が低く、高齢者の方の回答率が高くなるというところについては、前回 40%以上の回答率であったけれども、それをもっと上げることによって、そういった方々の声もしっかりと拾えるようにしたいと考えている。

具体的には、総合計画というところが、なかなか市民の皆様に馴染み深いかというと、そうでないところが多分にある。例えば、宇陀チャンネルなどで市長に総合計画について説明していただくとか、アンケート回答の呼びかけをするとか、そういったことをやることで回収率を上げていきたい。

小浦委員：

それでは回収後の分析の上で注意をしながら見ていけばよいかと思う。若者が今や将来のこのまちをどう見ているかというのが上手く今後の計画を作っていく分野とつながるような、意識が見えるような項目があるといいなと思う。

伊藤会長：

先ほどからご意見が出ているが、アンケート調査で拾えない部分、表に出てこない市民の意見や考え方の反映、どう拾っていくかという視点では、例えば、そうした対象の方にヒアリングするなど、アンケート以外の方法も検討いただいてはどうかと思う。

アンケート調査というのはいろんな計画を考えるときのデータとして参考にされるのだが、それをベースにしてつくった施策、計画をパブリックコメントにかけると、また一定の市民の方から反応がある。それでブラッシュアップしていけば良いのだが、パーフェクトは難しい。いくつか意見が出た中で、基本的には大きな変更点はないかと思うが、十分検討をしていただいた上で実施していただくというのでどうかと思う。

事務局（田中）：

資料1の12ページをご覧ください。後期基本計画の策定に当たっては、アンケート以外にも住民の方を対象としたワークショップなどを実施したいと考えている。例えば、中学生、高校生などの若い世代の方を対象にワークショップをすることによって、それぞれの世代がどういうご意見をお持ちなのかというのを幅広く意見を頂戴して、計画の策定につなげてまいりたい。

葉谷委員：

ホームページを見てくださいと言っても見ない人が多いので、そのことも想定して取り組んでいただきたい。

伊藤会長：

全員から意見を聞くということは難しいが、様々な人がいるということを想定する必要

がある。

小浦委員：

学生以外の調査項目では総合計画の内容、項目を聞いている。これまでの前期、中期とやってきて、成長戦略とリーディングプロジェクトにつながっている部分と、公共サービスの基本としてきちんとやっていかななくてはならないもの等、様々な要素が基本計画の中にあると思う。

このアンケートでは、総合計画の内容をフラットな状態で聞いている感じだが、これまで前期、中期とやってきて何らかの成果が出てきているという前提であるならば、そういったあたりの評価というのは聞かないのか。それをより推進していくのか、あるいは見直すのかということも後期の課題としては必要な気がしている。フラットに聞くのも非常に重要なのだが、頑張ってきたことの成果を聞いて、次の地域づくりに生かすという視点もあるのではないか。

伊藤会長：

前期、中期で毎年 PDCA を回して検証して、その結果をお見せしている。そこで多分成果は示しているのではないか。

小浦委員：

これまでの評価の積み重ねがあるということで理解した。

伊藤会長：

最後に策定スケジュールについてお願いします。

6. 策定スケジュールについて

- ・ 策定スケジュールについて【資料 3】 事務局より説明

伊藤会長：

説明内容について、ご意見、ご質問、ご感想があれば頂戴したい。

長岡委員：

アンケートの取り方が計画策定にとって重要になると思う。回収率が 44%というのが高いのか分からないが、これを少しでも高めるといふか、1 枚でも多くアンケートを回収するというのが、市民から意見を広く聴取するにあたっては必須だと思う。

玉利委員：

意見とか質問ではないが、25 ページの「成長戦略 しごと」というところで「道路環境の整備」と「地域資源を活かした農林畜産業の再生・活性化」の文言が逆になっている。

事務局（中尾）：

申し訳なかった。訂正させていただく。

伊藤会長：

全体の説明内容について、ご意見、ご質問、ご感想があれば、頂戴したい。

西角委員：

最初に、宇陀市の学校に子供が少なくなってきた。最終的には榛原の学校を1つに統合、各地域で中学校を1つに統合するという話も聞いている。子どもがだんだん減っている現状の中で、そうしていかなければならないのはわかるが、もう少し子供を寄せる方法がないかとか、もっと何か考えていただきたい。例えば、廃校舎のリノベーションや、女性が子育てをしながら働ける方法はないのかなど、知恵を絞っていただきたい。宇陀市の場合は働くところがないというのが一番の人口減少の大きな要因だと思う。その点について、知恵を絞りながら策定を考えていただいたらと思う。

それから宇陀高校の高校3年生にアンケートを取るという話だが、これは調整が必要と思う。宇陀高校の中でどれだけ地域学習に取り組んでいるかどうか、これにかかっていると思う。宇陀に興味を持って市外から来ていただいたらいいのだが、偏差値の関係で来られる方はそんな興味も何もなかなか湧かない。

観光施設について、「ガイドなら」という取り組みを菟田野で計画している。菟田野は観光地が少なく、歩いて回るには遠い。観光資源の発掘や近距離で周れるコースを作ることも重要と思う。

地域学習と観光を連携できると良い。歴史的なことだけではなく、中高生が、宇陀のことを自慢できるような愛着を持ってもらうための取組が必要と思う。

水野委員：

アンケートの回収率を上げるために、回答するとPayPayのポイントを貰えるような取り組みができるといいと思う。

事務局（田中）：

PayPay のポイントは難しいという気もするが、回収率を上げるにあたって、例えば何かの粗品をお渡しするなどは検討させていただきたいと思う。

その前に西角委員からいただいた意見だが、廃校になった学校のリノベーションという

お話をいただいた。宇陀市としても、先ほど資料でご説明させていただいたとおり、公共施設の老朽化がかなり進んでいるということもあるので、ファシリティマネジメントを進めていくことが喫緊の課題となっている。ただ、その施設を廃止するだけではなく、やはり地域の方々が守ってこられた大切な施設を有効に活用するようなことも考えながら、この計画を作っていきたい。

続いて女性の働く場ということも仰っていただいた。これも資料で説明させていただいたとおり、働く場がかなり減っている現状がある。宇陀市に働く場が無くなることは、地域経済の活性化の面でもかなりマイナスと思うので、そういったところにもしっかり取り組んでまいりたい。

最後に、地域学習のお話もいただいた。こちらについて、やはり小学生、中学生、高校生の方が、地域に愛着を持てば、定住にもつながろうかと思うので、そういったところにもしっかりと取り組んでまいりたい。

伊藤会長：

今日の審議会では後期基本計画策定にあたっての考え方、アンケート調査内容、スケジュールを事務局から説明いただき、その上で様々なご意見、ご質問をいただいた。

今後、事務局でアンケート調査を含めいろんな情報を整理していただいて、それを共有して議論を深めていきたい。

なお、後で気がついて聞きたいことがあれば、事務局お伝えいただき、もし了解いただければ、それを全員で共有して、次の審議会の議論の参考にさせていただきたいと思う。

以上